











方で、

「花まつり」が執り行われ、

通称、「お釈迦さまの寺」として知られる永源寺。

〈写真、右から〉 島田家の家紋「丸に三割剣花菱」 釈迦堂(旧、本堂)脚柱上部の彫刻 釈迦堂(旧、本堂)正面の欄間彫刻 島田家の家紋が施された屋根瓦 境内に安置された愛らしいお坊さま

> この御宸筆は、永源寺の寺宝として 皇より勅賜禅師号の御宸筆を賜った。

いまも大切に保存されている

最高の栄誉に昇進し、

ときの後西天



萬治三年(一六六○年)には永源寺四 この寺領を拝することとなる。また、 領二十四石余りを賜り、その後代々 六一三年)、二代将軍徳川秀忠より寺 より命名された。 寺は慶長十八年(一

|住職鉄心御州禅師が大本山永平寺

九世大覚仏海禅師として曹洞宗門

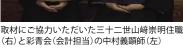
のこと。 周囲には二重に堀が巡らされていた 明だが、一万余坪の敷地を誇る寺の 川家康に仕えた。 あったのではないかと推察される。 痕跡があり、この場所が屋敷跡でも 直を滅ぼした際、その先鋒としての には松平広忠に、父利秀の代では徳 家康の活躍を讃えて秀吉から関八州 島田家は、重次の祖父十兵衛の代 現在、 島田家の屋敷跡は不 豊臣秀吉が北条氏 島田次兵衛 坂戸の地

寺号は利秀の隠居後の号、 時の関三刹の一つ越生流ヶ谷の龍隠寺 この地に菩提寺を建立したのである。 地を領有・統治していた。その後、 それより以前に重次は家康腹心の配 を賜った天正十八年(一五九〇年)、 十四世大鐘良賀禅師である。そして、 下として、 開基は父の右京亮利秀、開山は当 すでに坂戸とその周辺の 入道永源

島田次兵衛尉重次が建立三河武士旗本の

尉重次によってこの地に菩提寺が建 立されたのは文禄元年(一五九二年) 門とされる名門島田家。 清和源氏の流れを汲み、 族の居住地と定め、 土岐氏の





ここに菩提 徳川家康の

側近、三河武士旗本の島田次兵衛尉重次が坂戸の地を治め、

寺の成り立ちには由緒ある歴史もまた刻まれている。

地元の人たちに広く親しまれている。

毎年五月五日は盛大な

寺を建立したのは今から四百年以上前の文禄元年(一五九二年)であった。